

我思うゆえに広研あり

17代委員長
箕輪 正 則

・アメリカでは歴史は近代から教えるそうです。現役の皆さまご存知でしょうか。69年度闘争というのを。私が委員長を務めましたのは70年度ですが、まあ粉争の真っ最中でした。だいたい動機・根拠ともに薄弱な上に成り立っていた広告研究会というサークル。いままで見直すこともされないまま活動を続けてきましたが、前年にひき続きクラブとは、キャンストと慣れないミーティングに明けくれ、今ごろあの青春の時を帰してくれと薄くなった頭をさすりながら叫んでみてもラチのあかないことでした。困った風が吹いてきて右往左往のヨットの如くに我が広研は揺れ動いておりました。個人も悩んでいたでしょうが、委員長なるもの、苛立ちの青春の八ツ当たりをまともに喰らい、実りなき議論にいつのまに皿の真ん中に出されて、脳みそのシワを二、三本増やしてもさして、経験としては貴重なものと思えませんでした。やはり、悩みといえば、委員長は会社の社長ではないということですかね。金もなければ力もない。保障もなければ、明日もない。

ないない尽くしのポストで、リーダーシップを拒否する時代にリーダーで居たということです。ツキがないといえばそれまでですが、個人としては様々の屈折のなかで得難い経験を積んだことは確かであり、これからも百人にもなろうかという組織の責任者と成る可能性は非常に少ないと思うと、悩んではいたけど悩まなかった人より得をしたと考えています。



能ある広研は爪をかくす

18代委員長時代
禧 久 均

私らの時代は、キャンパスには足をひきづり腕を叩いた活動学生が闊歩する、ちょうど大学粉争の焼け跡派の時代。授業は毎日休講、まさか闇の買い出しではあるまいが、学割の発行は増加の一途。

超軟派志向のセントポールは持ち前の柔軟な本能で学園生活を斜めに楽しむザマでございました。広研のクラブ活動は、真っ昼間の六本木のように盛りあがらず、知ったかぶりの理論崇拝者が異常発生し、口角泡踊りの体でふくらんだ頭で宙に浮いた足がバタバタと耳障りでした。この集団発狂の状態を放ったらかしにするのか、はたまた、学生本分的広告研究疑似体験集団の伝統を守るべきかと悩んでおりました。まあよくよく考えて人間真面目であるということは非常に不真面目なんじゃないかという結論に達して、楽園広研は存続した方がいいと考えました。真面目なストリッパーはやっぱり不真面目なことですね。遊び心を失ってはいけないということですね。余裕のない顔もいけないと思うんです。女子学生の口角泡飛ばしの顔は、ラジカルというよりヒステリカルでよろしくありません。女の子はリリカルがよろしい。現役のキャンパスギャルたちに教えておいて下さい。頭のいいということは顔に出さん方が……。

広研さきに立たず。

19代委員長
岸 秀 雄

委員長は、私は、遊園地の管理人。楽しく遊んで欲しいし、事故があってはならないし、きっと一人で座っては、孤独の影が売りものだったと思います。悩みといえば2人になりたいとき1人だったことです。

【いろいろあらあな.!! エピソード】

16代~19代委員長時代

コンパで救急車! ボクシング部の殴り込み事件

広研は女性が比較的多いことも魅力の一つである。質もいい。知っているかな池袋西口の「養老の滝」ここで行なわれたコンパには女性参加の楽しいムード。オクターブ高い声がキャアキャア。襖ひとつ隔てて隣りはあの拓大ボクシング部のコンパ。精神主義ムンムンで男ばかり。暗いんです。宴もたけなわの頃、突然隣の会場から男が飛び込んで来て、パンチ一発。さすが体育会ボクシング部、的確なパンチを豊かなスピードで顔面に。我が立教広研男性は、格闘なれしてないうえにほろ酔かげん、かわし切れず目は真っ赤に腫れあがり危うく、失明。救急車で近くの病院へ。女性たちは泣き出すし、酒はこぼれるし、かってない宴会のだし物となりました。

役員たちは責任上、翌日こわごわボクシング部へ慰謝料の交渉へ。まあ体育会ということで納得のいく示談が成立いたしましたしてホッとした次第。楽しさ一転、命がけの宴会でした。普段から欲求不満にならないように…。

キャンストリヤカー事件!

1971年7月。キャンスト開店2日目。2人の下級生が真っ青な顔で合宿へかけもどって来た。水を一杯飲まして話を聞けば、リヤカーで店泊り用のフトンを積んで店へ行く途中、路上に駐車してあったイタリアの名車アルファロメオをこすってしまったと言うではないか。おまけに所有者とおぼしき3人組がチンピラ風。要求された修理費が200万円。それを聞いてキャンスト役員真っ青。なんせその年のキャンスト売り上げ目標が150万円くらいだからとても払える金額ではない。うなだれる2人の下級生をなぐさめつつ東京の弁護士に善後策を相談し、同時に館山警察署で事情を調べていくうちに、どうも無断で客の車を持ち出して来た3人のチンピラ整備工にも多々非があるということでたった3万円の示談金で解決。不幸中の幸というかぶつかった相手がよかったというか。開店早々の出来事でお先真っ暗の役員もホッと胸

キャンストバンド「マロ」便器事件!

キャンストに出演中のバンド「マロ」のドラマーが「大」の最中何を考えていたのか、手をすべらせ、イヤ足をすべらせて合宿所のトイレの大事なキンカクシを下に落としてしまったのだ。落とした直後は事の重大さに気づいてか知らぬ半兵衛、数人がその後利用して合宿長にトイレの異常を訴え犯人をさがしているあいだかのドラマー氏。一人トイレの中で上半身をつっ込んでくみとり式トイレの中に半分沈みかけている「キンカクシ」を素手で拾いあげようとしているじゃないか。あの臭気のなかで目にいっぱい涙を浮かべながら……。いい男だったなあ。この他にもいろいろありました。

- ①新入生勧誘「君こそ広研が求めていた女性なんだよ」事件。
- ②OB会長宅挨拶帰り乱闘事件。
- ③マジソンスクエアガーデンバッグ粉失事事件。
- ④サイネリヤ第2部室事件。
- ⑤立教祭神輿暴行され事件。
- ⑥広研内同好会発生事件。
- ⑦キャンストパンティ事件。
- ⑧館山バカヤロー事件。
- ⑨研究合宿ノゾキ事件。
- ⑩神宮球場会員会事件。
- ⑪熱狂将棋ホッケーゲーム事件。
- ⑫どんぐり牧場社会福祉とは何ぞや事件。
- ⑬館山ワサビ寿司「涙ポロポロうまいです」事件。
- ⑭キャンスト壮行会20代店長デビュー事件。
- ⑮キャンスト山脇女子高校生交遊録事件。
- ⑯館山モロコシ・ヤーサン事件。
- ⑰館山銭湯ナニタイル付事件。
- ⑱合宿所カラカイ「キツイナ！」事件。
- ⑲キャンストトタン屋根台風接近大雨漏事件。

以上の出来事のなかで特に興味を覚えられ詳しくご説明をお求めになりいたの方は、下記電話番号へお問合せのうえ大安吉日にウキスキーボトルご持参くだされば、当方素直にご説明申し上げる次第でございます。

1974~1977 C・S ランダムグラフィティー

昭和50年卒~昭和53年卒

博報堂プレゼンテーションルームにて

出席者

高倉 忠志	20回C・S	店長
高岡 秀夫	"	PR
富里 良一	21回C・S	委員長
松川 哲夫	"	店長
大塚 裕司	"	催物
高橋 明裕	22回C・S	催物
磨山弘太郎	23回C・S	営業副店長
阿出川治之	"	催物

高橋 本日は、お忙しいところ、お集りくださいましてありがとうございます。広研といえば、キャンプストアというように、イコールのような感じですよ。きょうは、キャンプストアのウラ話みたいなものを中心に、話を進めていきたいと思ひます。

松川 思うんだけど、キャンストがなければ、館山には絶対にいけなかった土地じゃないのかな。まあ、ぼくが最初にキャンストへ行った時なんかね(19回C・S)杉本さんが店長で、松崎さんが合宿長で、エラクこわくてね。

富里 役員でやたらツッパっていたんだよう。

松川 まあ、聞いてよ。初めてだから、海の家へ遊びに行く気分でしたわけ。ほんと、軽い気持ちで内房線に乗ったんだけどね。

まず、合宿所について、何すればよいのかなア、なんて思っていると、松崎さんに「お前、洗濯やれ!」って言われて、洗濯物をドサッとわたされたわけよ。ああ、これはマズイところへ来ちゃったなア……なんて感じ。

高橋 合宿長って、なんか、こちらが考えている人間とはちがうですよ。ぼくが一年の時の(20回C・S)峰岡さんもそうだったけど、有無をいわさずに二階の役員部屋にあげられて「お前、正座してろ!!」なんて。でも当人はアグラかいて新聞読んでいたりね。

高倉 キャンストってね、ふだんとコロッと変っちゃ

うんだよネ。性格が。

高岡 ふだんはバカやっているようなヤツでも、キャンストに行ってみると、意外にカタかったり。

高橋 準備期間に手伝いに行ったんですよ、ぼくも。軽い気持ちで。ま、役員は何日も前から行っているわけで、当然まっ黒に日焼けしているでしょ。おまけに無精ヒゲなんか生やしたりして。それで、館山に着いたとたん、砂がえだ、水まきだ、と、コキ使われるわけですよ。これからこの人たちと一緒にやっていけるのかな、なんて不安になっちゃうわけですよ。高倉さん、身覚えあるでしょ!

松川 でも、準備期間で…よくあれだけ次から次へと仕事があったな。なんて気がしませんか。

富里 ホント。毎日なにやかにやで、ああ仕事したな、って感じだったね。

松川 でも、保健所なんかの許可がおりるのは、いつもギリギリなんだよね。

高橋 磨山たちなんか、開店前日、徹夜でイスとテーブルうめてたろ?!

磨山 そうですね。あれはヤバかった。保健所の許可なんて、ほんと、ギリギリでね。なかば、だましちゃったみたいな所もあるんですよ。「あ、これは今やっている中です。」とか、「そのように直すようになっていきます。」とか、うまいこと言っちゃって……。

阿出川 ま、ぼくらの時は準備期間中、雨にたたられたこともあるんですけど。

高岡 ぼくらはさ、トイレのをもらうのが大変だった。まぎわになって、保健所が、トイレをつけなきゃ許可しないなんてことになって。あわてて簡易トイレをつけたんだよね。それで、このトイレが実に問題でね。客が入ったたびに、防臭液をシュッシュッとやる係がいたり、できるだけ、客には使わせないようにしたり。

富里 そんなキャンプストアでも、やる、やらないでモメなかった? ぼくが一年の時の執行部はさ、キャンストをやる、やらないで委員長を選んだみたいよ。で、結局キャンスト推進派の岸さんが委員長になって、自動

的にキャンストはやることになったらしいよ。つまり岸さんなんかの代が、二年生の時にモメたことだよ。

松川 ま、何かと二年生は問題が多いとか……。

富里 だいたい、一年と三年が仲良くて、くつついちゃうって感じじゃない。

高岡 そうやって、一年おきに飛ぶんじゃないの? 一年おきに何かやらかす代になって、一年おきにオーソドックスな代になる…けっきょく、かわっている代が、キャンストを変革していくパワーをもっているみたいだよ。

高橋 ぼくらの時は、やらない、なんて気持ちは全然おきなかったですよ。やるとなったら、ガチッとかたまっちゃって。高倉さんなんかの代も、そうだったですよ。やっぱり一代おきに似ちゃうみたい。

磨山 ぼくらが三年の時は、三年の役員の中でも、やりたくない人間はいましたよ。つまり、バックアップはしない、みないな、消極的な反対ってヤツでね。結局のところ、キャンストをつぶす理由なんて、なかったわけですよ。

松川 お前たち、たしか役員が数人しかいなかったよ。うなア。

磨山 その少ないメンツの中で、モメたわけですよ。

高倉 その時の委員長って、誰だったんだ?

磨山 あの……ぼくです。

高岡 人材的に問題があったりして、ハハハ。

高倉 立教の場合、他の明治とか、青学なんかとくらべると、自由だったんじゃない? 毎週、波奈ずしへ行ったりして。

磨山 たしかに、他校は、酒がダメなはずですよ。たとえば明治の派遣がウチへきて、昼間はいろいろとイジメたりするわけでしょ。でも、夜は、波奈ずしへ連れて行って、酒のんで、寿司たべて、おつかれさん、てな感じでね。みんな感激して帰っていきましたよ。

松川 そうそう、派遣といえば、ぼくらの代は、誰が行ったんだけ。

富里 オレだよ、オレもう、あれは死ぬかと思ったも

んね。高倉 派遣の壮行会ってのがすごかった。星なんか、たしか、ハチマキしていたろ? 特攻隊みたいに。

高橋 そうですね。ぼくらなんか、磨山なんかも派遣に出すときなんか、すごかったですよ。そのハチマキが。だんだんエスカレートしちゃうわけですよ。『極道一筋』とか『御意見無用』とか書いたりして。アソビだか、本気だか、わからなくなっちゃって。

磨山 あれで、すごく燃えちゃうんですよ。

高岡 ぼくも、はじめ派遣って何だかよくわからなかったもの。とにかく、オレと渡部が「むこう行って手伝ってこい!」と言われてね。「ただ手伝ってくるのもなんだから、カンシャク玉もっていけ!」とか、「棒切れを腰にさしていったほうがいい」とか。なんでこんなことをするんだろうってね。

松川 そういえば、オレたちが派遣に出したヤツで入院したのがいたなあ。

高橋 大野、大野!! 館山駅のむこうの、伊賀病院へ入院したんですよ。タバスコかけられたんですよ、キンタマに。そうしたら、皮がむけちゃって……。

高倉 どこだ! そんなひどいことするのは?

高橋 青学ですよ、青学。

磨山 大野さん、しばらくはガニ股で歩いてましたもの。

高橋 それが伏線になったかは、わからないけれど、青学の相内というのが、立教へ派遣として来たわけですよ。まあ、お客さんだから、いつものとおり、棧橋から海へほうりこんだわけですよ。そうしたら、おぼれちゃって。また彼も伊賀病院へ入院しちゃったんですよ。

磨山 もうみんな、棧橋の上から、「あれ、演技している!」なんて、ワイワイやっていたら、本当におぼれちゃうんだもの。

高倉 メチャクチャな話だな。

高橋 水まきなんかのときも、派遣用バケツなんて、ふつうの倍もあるデカイやつを用意したりしてね。

高倉 あと、ヤクザの発砲事件なんて、ヤバイことも

あったね。

高岡 ま、それとは直接カンケイないんだけど、誰か、黒塗りのマーキュリーにキズつけたんだよね。黒の外車とくれば、ヤーさんの車なわけよ。それで、キズつけたやっつ、あやまりに行ったら、「こいつをかせ！」って車の中へ連れこもうとするわけよ。なんとか平あやまりにあやまって、ヒヤヒヤものだったよ。

磨山 ぼくらの時は、高雄商事っていうのがキャンストの近くにあって。ま、事件というのは、準備期間中にぼくら四年が遊びにいていた時なんですけど、店の前をトラックで荷物をはこんでいたら、内側から追越しをかけられたんですよ。その高雄商事の車に。そうしたら、たまたまこっちの運転手が、すぐカットするやつで、すぐさま抜き返したわけですよ。そうしたら、その車と接触しちゃって。それで、その時の店長の島村が、責任者よべ、って感じで連れていかれちゃったんですよ。でも、島村はヒョウキなヤツだから、すぐに仲良くなったんですよ。そうしたら、あとで、店にカキ氷の出前がバンバンきましてね。シロップもサービスして、いっぱいかけてあげたりして。

富里 あと、駅のむこうのスナックかなんだかの壁画を描きにいってじゃない。なんだったっけ——そう、「私のお店」

磨山 ああ。あれは苦痛だったんですよ。勤務が終ってからも、富里さんに、「行くぞ！」って言われて、トボトボと……。

高倉 なんなの、それ。

松川 金田さんて、祭りのときとか、いろいろ世話になった人がいたでしょう。その人がキャンストへやってきて、ぼくとかが接待していると、店の壁画をみて、「あれ、誰が描いたんだ？」って聞くから、「ぼくたちが描いたんです」で答えたんですよ。

富里 ああ、古瀬さんとか、藤原さんがデザインして描いたんだよね、あれ。

松川 それで、金田さんが「うちの店にも描いてくれ」って言って。結局、オレがほとんど描いたんじゃないの？

富里 なにいったんだよ!! オレなんかも必死で描い

たんじゃない! もう、あそこで真っ昼間から描いていると、太陽がキラキラでさ。背中が真っ赤に焼けちゃうんだよね。

松川 ま、一種の地元奉仕みたいなもんすよね。

大塚 ぼくらのキャンスト最後の波奈ずしでの慰労会が最高だったんじゃない? ほれ、良ちゃん、トラックトラック!!

富里 あ、それ、ヤバイなあ……

松川 あの時はサ、波奈のダンナが芸者よんでくれたりして。思えばすごかったものな。高田なんかが、まず、はしゃぎだしちゃって、パンツ一枚になったり。そして、平田とかがつぶれて。オレも宿所にかえって、そのままダウン。そうしたら、その間に、富里がいなくなっちゃってさ!!

大塚 あした荷運びで使うトラックで、東京へ帰っちゃった。

富里 ああ、ヤバイ、ヤバイ!! この話カットだよ、カット!!

大塚 松川、おまえも、平気な顔してるけど、あのこと言っちゃろぞ! オネショのこと。

松川 いや、あれはサ、オネショじゃないよ。オネショというのは、無意識のうちにやるもの。ぼくは、したくてしたんだから。

高倉 もっと、仕末悪いな。

高橋 ぼくらの時も、波奈ずしから帰ってきて、ドタッとふとんにたおれこんでね。気がついたら蚊とり線香で、ふとんがジジッと煙はいて……。結局、前の家の人の通報でわかったんだけど。その燃やした張本人は、最後まで、グーグー寝ていたという……。オソロシイ。

大塚 なんだか、ヤバイ話ばかりだな。

高橋 それと、なんたって、一年の時の沖の島事件がすごかった。最後の最後、閉店期間に沖の島へ遊びに行ったんですよ。それで、あの騒ぎ。役員だろうと、一年だろうと、片っぱしから海にほうりこんでは、海パンぬがしたりして。

磨山 あ、それ「水中バレー」ね!

松川 沖の島っていうのは、砂洲があって、その両側が海なんだよね。両側でぬがせたり、メチャクチャやるわけでしょ。近くにいた海水浴客が、恐れをなして逃げちゃった。

高岡 そして、パンツぬがされたまま、前をおさえ、砂浜をかけまわるわけよ。事情を知らない人が見たら、「こいつら、間違いじゃないか」なんて思うよ、あれ。

高倉 たしか仕掛人は宮内だぞハードウェアに強いヤツは、ハメがはずれるとすごい! な、大塚。

大塚 エッ、エッ?!

松川 ま、こういうのが、いまから見れば、一種のパンカラなのかもしれないな。

高橋 広研で、軟派のように見えても、案外、硬派の面もあるんですよ。

高岡 ま、そういったメチャクチャなこともやったけれど、一、二年の希望勤務なんなの、やらなかった?たとえば、あの女の子と勤務につきたいとか……。

高橋 そうそう、一日店長とかいって、女の子を店長にしたりして。

磨山 ぼくらなんか、あの二人があやしい、なんていうと、率先して裏方へ入れてやったり。気がきくよなあ。

高橋 ぼくらなんかの時はね、一年が役員になるでしょ。そうすると、ふだんのウラミか、じょうだんか、メチャクチャな勤務表をつくっちゃうわけですよ。「店頭人形」とか、「シケモクひろい」なんていう役をつくったりして。

高倉 そういう役員いじめ、というのかな。「店どまり襲撃」なんてこと、しただろ?

大塚 あれは、閉店の日の店どまりをおそうんですよ。たまたま来ていたとか、四年生の方がノッていたっけナ。

阿出川 ぼくなんか、たぶん襲われるんじゃないか、と思って、ロープをガッチリしめてね、あと、人の通りそうな所に画びょうをバラまくわけですよ。ま、結局はムダな抵抗で、襲われちゃったわけですけどね。

富里 ま、あれこれ、ムチャをやってきても、大事故がなくてよかったよね。うまくコントロールされているところがあったみたい。

松川 気がはっている時はビシッとして、遊ぶときは、とことんハメはずしちゃうとかね。

高橋 思えば、ドラマチックな四年間でしたよね。本日は、おもしろい話、いろいろありがとうございました。

